

萩ジオパーク

推進協議会だより vol.81

萩ジオパーク推進協議会

| 2021年11月30日発行 |

〒758-0041

山口県萩市大字江向602 萩・明倫学舎本館2階

☎ 0838-21-7765 ☎ 0838-25-7767

✉ geo@city.hagi.lg.jp

🌐 https://hagi-geopark.jp

📘 https://www.facebook.com/HagiGeoProject



「地球を食べる食堂 龍が通った道と弥富そば」を現地開催

11月25日（木）萩ジオパークが提供する「食」を通じた大地と人のつながりを楽しむ体験型講座「地球を食べる食堂 龍が通った道と弥富そば」を開催し10名の参加をいただきました。

萩市東部の山間部に位置する弥富地域の特産品である“弥富そば”について、昔タバコの乾燥場だった建物を利用した「そばの乾燥場」で、弥富そば生産組合の宮内さんに詳しく解説いただきました。



そばを支える大地の特徴がよく分かる「溶岩断面露頭」、「壘ヶ淵」などを白井専門員の解説を聞いて見学し、「龍が通った道」については宮内さん手作りの道具を使ってわかりやすく解説いただきました。



最後に弥富公民館で、龍の里やどみのそば打ち職人さんの指導により、弥富そばを切る体験をして、昼食としておいしくいただきました。



久々の現地開催となり、参加者から『大変貴重な経験ができた』など生の声がきかれ、弥富の大地とそこで暮らす方々の思いにふれるいい機会となりました。



〇〇さんに 会いに行こう！

萩焼作家さんに会いに行こう

山口ゆめ回廊博覧会プレミアムゆめ散歩「萩焼作家さんに会いに行こう」を10/30と11/7に開催しました。今回の訪問先は、萩焼はじまりの窯「坂高麗左衛門窯」の若き萩焼作家、坂悠太さんに会いに行きました。初めに坂窯で焼かれた茶碗でお抹茶をいただきながら、萩焼の歴史や作陶の試行錯誤などを坂さんから説明していただきました。初代から歴代の作品が並ぶ展示室では、一点一点手に取りながら後継者ならではの解説に、参加者は興味深そうに聞き入っていました。その後、100年以上使い続けられている登り窯の内部まで見学させていただき、他ではできない“体験”を通じてその伝統を体感しました。最後に、白井専門員が地球科学の視点で陶土に着目した解説をしました。体験や解説を通じて、萩焼の伝統を守りながら新たな方向性を模索する坂さんの心に触れていただきました。

大地の遊び人養成講座 を開催しました！

@阿武町筒尾

野外での遊びを通して大地と向き合う心を育む「大地の遊び人養成講座」の第4回を、11/13に開催しました。第3回は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりましたが、今回は無事に開催することができました。

まずは、薪をつくることからスタート。のこぎりで丸太を切り、なたで割り燃えやすいように加工する。道具を正しく扱うことは大地の遊び人にとって欠かせないスキル。普段使わない道具に苦戦しつつも、正しい扱い方を学べば、子供も一人で作業できるようになりました。

食材はできるだけ地元でとれたものを道の駅で購入。火を起す、大量の食材を切る、火力が落ち着くのを待つ、鉄なべで焼く等大人数での野外遊びならではの体験をしていただきました。参加者、講師、スタッフ問わず皆で工夫しながら調理し、気づけばメニューにない料理が出来上がることも…。

次回は、1/22（土）に開催予定です。冬の大地ならではの遊びをしましょう。



鉄なべで調理



オープンサンド

見島・八町八反プロジェクト報告

10月30日と11月6・7日に、萩市ジオパーク活動補助金を使った『見島とともに生きる会』による、『見島・八町八反プロジェクト～千年の田んぼ・八町八反の成り立ちを探る！』事業が行われました。

10月30日は萩市立見島小中学校の児童生徒と関係者を対象とした八町八反ミニツアーを行いました。公民館から八町八反まで歩き、田んぼわきのため池の生物調査をしたり、かつて行われていた方法で水汲み作業を体験しました。そして、国指定史跡『ジーコンゴ古墳群』を見学、説明を聞きました。

11月6・7日は『溜池の水全部抜く！』調査。条里制の特徴が残る八町八反の成り立ちを溜池に用いられていると考えられる胴木の年代測定を行うことで探るために、溜池の水を抜きました。が…、溜池底のヘドロが厚く、また、水がどんどん湧いてきて、2m近く除去したものの胴木に到達できませんでした。年度中の再チャレンジを誓って終了されました。詳しい報告は、萩ジオパークフェアにて行います。



二人組で息を合わせて



ヘドロを除いて出てきた石組み

健康増進×ジオパーク！ぶらっと阿東in徳佐を開催

10月28日に、山口市阿東徳佐を舞台にした健康ウォーキング行事『ぶらっと阿東 in 徳佐』が開催され、専門員の白井が講師として参加しました。旧亀山小学校の体育館で健康運動指導員の先生から体のほぐし方や歩き方を教わった後、約2kmのコースをウォーキングしました。徳佐盆地を象徴する広～い田園風景の向こうに、盆地ができるきっかけとなった丸い形の火山（野坂山など）を望みながら、晴天のもと気持ちよく歩きました。ちょうど中間地点となる火山の麓には湧水があり、美味しい軟水でのどを潤しました。後半には「瀬祭米」と書かれた酒米を積んだトラックともすれ違い、火山が生んだ徳佐盆地の恵みの大きさを感じる嬉しいサプライズとなりました。

ぶらっと阿東シリーズは今年で3年目。毎年参加されている方も何人かおられ、終了後には県内各地でやってほしい！等のご意見をたくさんいただきました。ジオパーク目線の楽しみ方がジワジワと広まっていることを実感できて嬉しい機会となりました。



学校でジオパーク学習

10/29 椿西小学校

5年生の総合学習「ビオトープ再生大作戦」に萩博物館の川原学芸員と参加しました。

11/12 白水小学校

6年生に笠山で実験や現地見学を通して火山の成り立ちや特徴を学んでいただきました。

11/22 佐々並小学校

5、6年生から地元の神社をジオサイトにしたいと相談を受け、助言や現地見学をしました。



佐々並小学校

『萩ジオパークフェア2022』 つながる～大地と人、人と人、地域と未来～ 3月13日（日）に開催決定！

萩ジオパークフェア2022を、令和4年3月13日（日）10時から萩・明倫学舎本館で開催します。今回は、つながるをテーマに萩ジオパークに関係する様々な展示や体験、地球を食べる食堂、大地の遊び人などのミニ講座、オンラインで全国のジオサイトとつながるなど充実したプログラムを計画しています。また、今回も一部プログラムをライブ配信しハイブリッド方式で開催します。直接現場でフェアを満喫するもよし、お家でオンラインを楽しむもよし、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



昨年の様子

＼ 12/1 受付開始！ ／ 萩ジオアカデミー受講生募集

地形地質を研究しておられる第一線の研究者から萩の大地の成り立ちや特徴を教えていただく「萩ジオアカデミー」を下記のとおり実施いたします。受付開始は12月1日で、電話・メールでお申し込みください。多くの皆様の参加をお待ちしています。



【第1回】日本海の多様な地質と第四期地殻変動

日時：12月18日（土）9：30～12：00

場所：萩・明倫学舎（萩市）

講師：岡村行信先生（産業技術総合研究所地質調査総合センター）

内容：海底地質の調査方法についてお話を伺い、実際のデータから地質学的な解釈を体感する。

参加費：500円（資料代） 定員：30名（先着順）

【第2回】徳佐盆地と長門峡の秘密

日時：12月19日（日）10：00～15：00

場所：長門峡自然休養村管理センター（山口市）

講師：楳原京子先生（山口大学）

内容：地形の基礎についてのお話を伺い、地形図の見方を学んだあと、現地で実際の河川がつくる地形を見る。

参加費：1,000円（昼食・保険料・資料代） 定員：20名（先着順）

12月の予定

○ geoとも（萩ジオ友の会）定例会「ミニジオ探訪+座学」 12月18日（土）主催・問い合わせ：geoとも 桂（0838-21-7173）、中西（080-8747-9383）

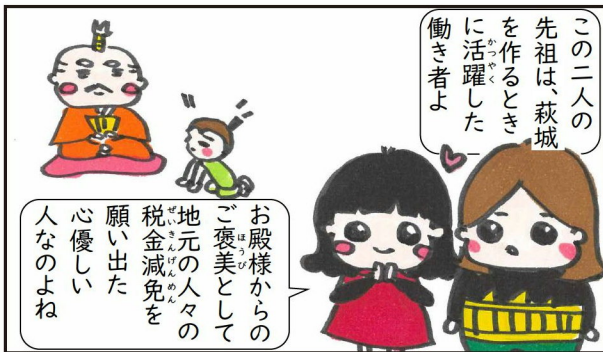
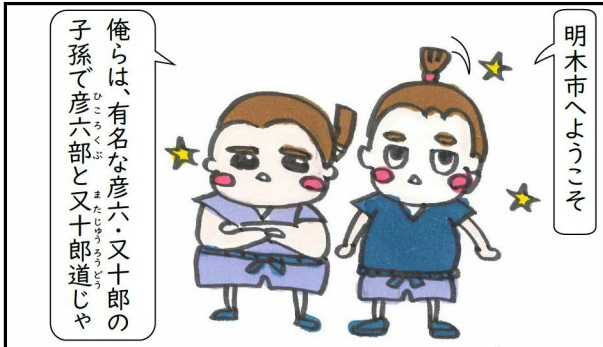
● 萩ジオアカデミー #1「日本海の多様な地質と第四期地殻変動」 12月18日（土）9：30～12：00 場所：萩・明倫学舎（萩市） 参加費：500円（資料代） 定員：30名（先着順） 主催：萩ジオパーク推進協議会 申込・問合せ：萩ジオパーク推進協議会（0838-21-7765）

● 萩ジオアカデミー #2「徳佐盆地と長門峡の秘密」 12月19日（日）10：00～15：00 場所：長門峡自然休養村管理センター（山口市） 参加費：1,000円（昼食付） 定員：20名（先着順） 主催：萩ジオパーク推進協議会 申込・問合せ：萩ジオパーク推進協議会（0838-21-7765）

はん だ がんばれ!半田くん

原作：わっきー教授 画：白玉だんご

第60話 明木市に着いたよ!



第61話 明木をぬけて佐々並市へ



わっきー教授のつぶやき

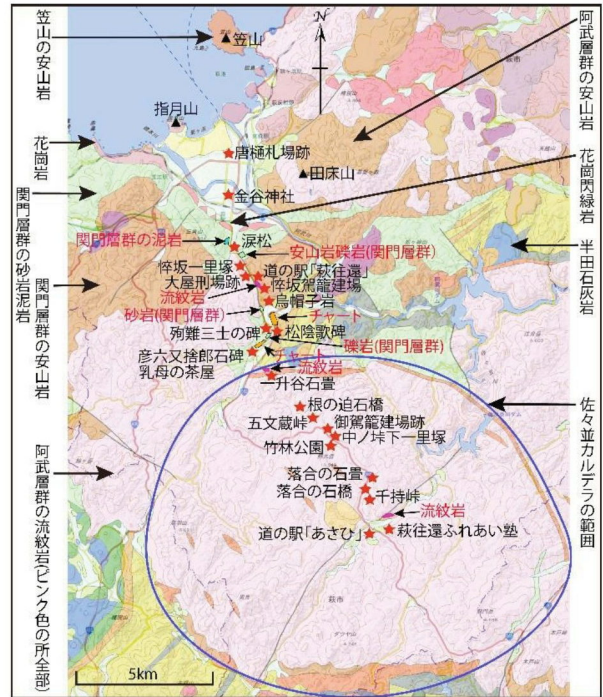
今回は、「がんばれ！半田くん」萩往還編の最後です。今回は、明木から佐々並までのお話です。明木のあたりは、チャート・石灰岩・砂



岩・泥岩からなる付加体があって、松陰歌碑の近くの明木川沿いには固い岩盤のチャートが見られます。今から約3億年前に出来た古い岩石です。チャートはとても硬い岩石で、江戸時代は火打ち石として用いられたそうです。

明木川から少し離れた道路沿いには、これらを不整合に覆う関門層群の礫岩や砂岩があります。これも、今から約1.3億年前の相当古い石です。そうした石を見ながら進むと、乳母の茶屋に到着します。毛利家の乳母をしていた祖先がいた佐々木家の跡地が休憩所になっており、玄関先に彦六・又十郎の看板があります。彼らは、萩城築城の時に石工として大活躍をして、殿様から褒美をもらうことになったとき、自らの褒美の代わりに明木の里の全員の税金(口屋銭)の免除を願い出て、里の人々から感謝されました。彼らの子孫はダジャレ好きに描かれています、原作者のせいです。

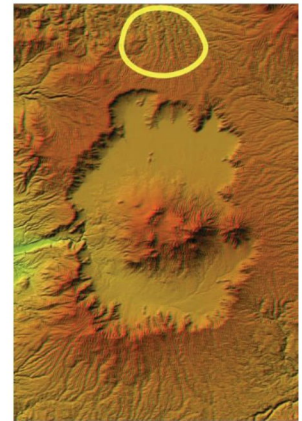
明木を過ぎて一升谷に入ると、そこはもう「佐々並カルデラ」の中です。佐々並子ちゃんの家のある佐々並は、九州の阿蘇山のようなカルデラであったと言われていました。萩往還地質マップの1番下の青い線の範囲で、阿蘇山の大きさと比較する為に阿蘇山の上に黄色で大きさを描いてみました。佐々並カルデラは阿蘇のカルデラに比べると小さく感じますが、佐々並カルデラの境界の断層はカルデラの地下の円形の断層に相当し、噴火した地表での外輪山の大きさは地下の断層よりずっと大きいのが一般的なので、佐々並カルデラを作った火山の規模は阿蘇山と同程度だったのか



萩往還地質マップ (下側の青い丸は佐々並カルデラの範囲)

もしれません。

萩往還地質マップでは、1番上(北)に笠山の安山岩があります。そして、田床山には、阿武層群の安山岩が、道の駅「萩往還」より西側には、関門層群の安山岩があります。安山岩というのは、含まれるケイ酸の量が流紋岩と玄武岩の間の組成



阿蘇のカルデラ (国土地理院アナグリフ、黄色が佐々並カルデラの大きさ)

を持った岩石です。つまり、含まれる成分によって付けられた名前です。しかし、笠山の石は今から約8800年前、阿武層群は約9000万年前、関門層群は約1.3億年前と、それぞれ出来た時代が全く違います。でも成分が一緒だから安山岩なんです。萩往還には、色々な時代の色々な地層や岩石が見られます。日本の歴史を学びながら、地球の歴史も一緒に学んで歩くと、より一層楽しい萩往還ツアーができますよ。是非チャレンジしてください。